



矢野 邦夫 先生

浜松市感染症対策調整監
浜松医療センター感染症管理特別顧問

'81年 名古屋大学医学部卒業。名古屋第二赤十字病院、名古屋大学病院を経て、'89年 フレッドハッチンソン癌研究所、'93年 県西部浜松医療センター（2011年4月より「浜松医療センター」に病院名変更）。'96年 ワシントン州立大学感染症科エイズ臨床・エイズトレーニングセンター臨床研修修了。'97年 感染症内科長／衛生管理室長、'08年 副院長、'20年 院長補佐、'21年4月より現職。

ホームページでも、公開しています。

メディコン CDCWatch

検索



熱波中の重篤なビブリオ・バルニフィカス感染症

2023年7月から8月にかけて、米国においては熱波と海面水温の上昇が続いたあとに、東部3州の住民の間で重篤な*V.vulnificus*感染症〔註釈1〕が11人報告された。CDCがその詳細を報告しているので紹介する（1）。

はじめに

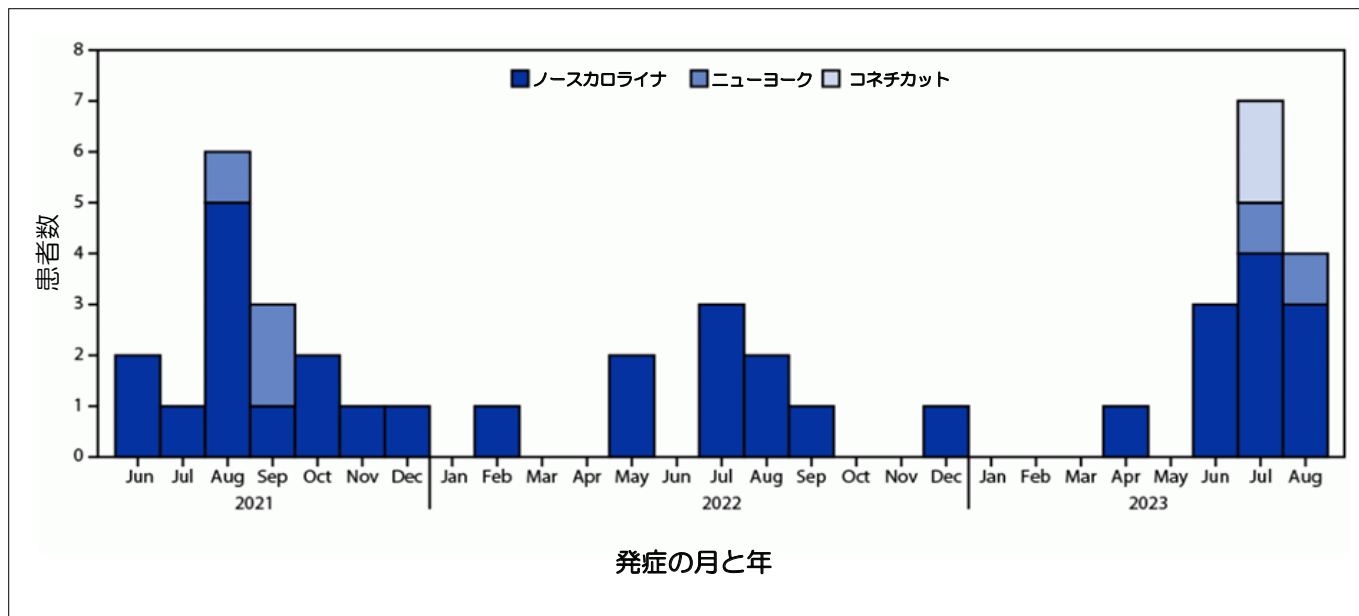
- ビブリオ・バルニフィカス (*Vibrio vulnificus*) は水系および食品系の病原体であり、河口環境に生息し、温かい水域で繁殖する。*V.vulnificus*は、塩水、汽水、生の魚介類との接触を通じて開放創に感染することがある。そして、感染症は、生または調理が不十分な魚介類を摂取した後にも発生することがある。
- 米国では、年間150~200人の*V.vulnificus*感染症がCDCに報告されており、そのうち約20%が致死性である。
- 2023年6月から8月にかけて、米国では広範囲にわたる熱波と平均を上回る海面温度が発生した。
- 2023年7月から8月にかけて、米国東部3州（コネチカット州、ニューヨーク州、ノースカロライナ州）の公衆衛生当局は、沿岸水域や魚介類への曝露に関連した*V.vulnificus*感染症の通知を受けたが、そのほとんどは重篤で敗血症性ショックあるいは死を引き起こした。
- この報告書は、2023年の熱波中のこれら3つの州の住民における*V.vulnificus*感染症について説明している。

調査

- 定期的な疾病サーベイランスを通じてビブリオの臨床検査陽性結果の通知を受けた後、すべての州の公衆衛生当局は、コレラおよびその他のビブリオ疾患サーベイランス症例報告フォームを使用して患者と面談し、基礎疾患、臨床転帰、発病前に発生した曝露に関する情報を収集している。
- 生牡蠣の消費に関わる事件の場合、州外から出荷された汚染された生貝類の可能性が報告された後、調査員は小売施設に連絡し、牡蠣の収穫タグを収集し、関連する州および連邦当局に通知している。

症例の特徴

- 2023年7月から8月にかけて、ノースカロライナ州、コネチカット州、ニューヨーク州の保健当局に、*V.vulnificus*に感染した11人が報告された（それぞれ、7人、2人、2人）（図）。
- 患者の年齢中央値は70歳（範囲=37~84歳）であり、7人は男性であった。
- ノースカロライナ州の患者1人は追跡調査ができなくなった。情報が入手可能な患者10人のうち、1人を除く全員が少なくとも1つの基礎疾患を有しており、最も多いのは糖尿病（3人）、がん（3人）、心臓病（3人）、アルコール依存症の既往（3人）、血液疾患（2人）であった。
- 6人が敗血症性ショック（4人）を経験したか、死亡（5人）した。そして、3人は両方を経験した。死亡した患者は全員、少なくとも1つの基礎疾患を抱えていた。



発症日および患者の居住州別のビブリオ・バルニフィカス感染者数 (N=41)
 —コネチカット州、ニューヨーク州、ノースカロライナ州、2021年6月～2023年8月

V.vulnificus 曝露の可能性のある感染経路

- 2023年7月7日から8月2日までの米国大西洋岸沿いの海水または河口水への創の曝露によるV.vulnificusの水系感染が、6人の感染経路として最も可能性が高かった。
- 水系感染症はノースカロライナ州 (3人)、ニューヨーク州 (2人)、コネチカット州 (1人) の住民で発生した。
- ノースカロライナ州住民のさらに2人の症例は、調理中に生の魚介類を扱った際に手の切り傷に晒されたことが原因と考えられる。
- 曝露情報のある残りの2人のうち、1人はコネチカット州在住者の食中毒による曝露によるもので、別の州で生牡蠣を摂取したと報告したが、関連する水や環境への曝露は報告しなかった。2人目の患者はノースカロライナ州在住で汽水への創の曝露と生牡蠣の消費の両方を報告した。

暫定的な結論とアクション

- コネチカット州、ニューヨーク州、ノースカロライナ州の公衆衛生当局は、V.vulnificus感染症の症例を迅速に特定し、調査を開始した。
- 3つの州保健局はすべて、V.vulnificus感染症について国民に知らせるプレスリリースを発行し、CDCは健康勧告通知を発行した。
- これらの症例の注目すべき特徴は、重篤な臨床転帰を超えて、記録破りの米国の熱波に引き続いて発生したことである。
- 7月から8月にかけて報告されたこれらの症例は熱波のみに起因するものではないが、ビブリオ症の発生率とビブリオの増殖に好ましい環境条件、つまり水面温度の上昇と低塩分との関係は十分に文書化されている。
- ノースカロライナ州では2021年から2023年にかけて年間10～13人の症例が報告されたが、コネチカット州では2021年から2022年にかけてV.vulnificus感染症の報告はなく、ニューヨーク州では2021年に3人の症例が報告されたが、2022年には症例の報告はなかった (図)。
- 沿岸水温の上昇に伴い、V.vulnificus感染症がより多くなることが予想される。汽水、塩水、生の魚介類との創の接触を避け、牡蠣やその他の魚介類を食べる前に十分に調理することで、病気を予防する手段を講じることができる。

[註釈1] 本邦においてV.vulnificus感染症 (腸炎ビブリオ感染症) は、感染症法により第5類感染症定点把握疾患に分類されている。

[文献]

1. Hughes MJ, et al. Severe Vibrio vulnificus Infections During Heat Waves — Three Eastern U.S. States, July–August 2023
<https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/73/wr/pdfs/mm7304a3-H.pdf>